

プールライフセービングサポーター 研修会の取り組み

○風間隆宏	公益財団法人	日本ライフセービング協会
水川雅司	公益財団法人	日本ライフセービング協会
土倉敏男	一般社団法人	日本マスターズ水泳協会
福原博	一般社団法人	日本マスターズ水泳協会

- 日本ライフセービング協会（以下JLA）は、2018年に大会での安全体制構築に関する活動などを目的に日本マスタース水泳協会（以下JMS）と**パートナーシップ協定**を締結した。
- JMSは、マスタース水泳の普及・振興に関する事業を行い、2018年度には、40,178人、3,086チームの登録数、7つの大会を主催、さらに国内107大会、海外2大会を公認している。
- 一方、過去大会中に**重大事故が発生**していることもあり、その**安全体制向上**は大きな課題となっている。
- 2019年度より、JMAとJLAが協力し、大会のボランティア監視員の増加を目的とした**プールライフセービングサポーター研修会**を実施している。本論では、研修内容、今後の課題を報告する。

プールライフセービングサポーターとは？



JAPAN MASTERS SWIMMING ASSOCIATION
一般社団法人 日本マスターズ水泳協会



日本マスターズ水泳協会と日本ライフセービング協会はパートナーシップ協定を結ぶ
(2018年7月から)



<連携・協力事項>

- ・ マスターズ水泳競技会での安全体制構築に関する活動
- ・ 水難事故予防のための教育・普及に関する活動
- ・ 双方の事業における未整備地域の解消にむけた活動

プールライフセービングサポーター研修会は、その協力事業

プールライフセービングサポーターとは？

（一社）日本マスターズ水泳協会の公式競技会で、救護係としてプールでの監視救助業務のサポートを行う！



**ライフセーバーと一緒に安全安心な
マスターズ水泳大会を創り上げるお手伝い**

①以下の資格を取得している方 または過去に取得していた方

- ・ 日本赤十字社水上安全法救助員
- ・ JLA（日本ライフセービング協会）プールライフガード
- ・ JLA（日本ライフセービング協会）ベーシック・サーフライフセーバー
- ・ 日本スポーツ協会公認水泳指導員（基礎水泳指導員含む）

②参加要件を満たし、**プールライフセービングサポーター研修会**を受講した方

◆参加要件

○下記の泳力がある方

- ・ 立ち泳ぎが3分以上できる ※巻き足・踏み足・ブレ足
- ・ 深さ2m以上潜ることができる
- ・ 顔上げクロール・平泳ぎが2.5m以上できる

○BLS（心肺蘇生法）の講習会を受講済みもしくは今後受講予定の方

● 講義

- ・ 事件事例
- ・ 監視方法
- ・ ドライレスキュー
- ・ 緊急時対応計画など



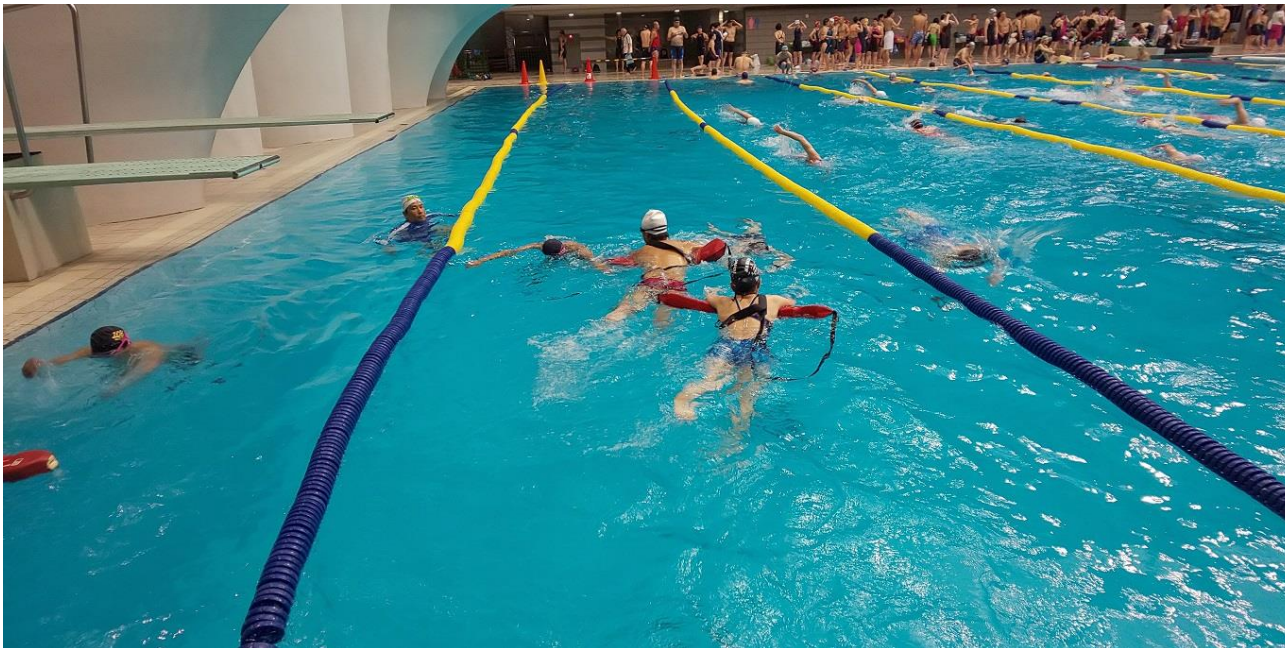
● 実技

- BLS の復習
- 監視
- 引き上げ
- 運搬など



● 実技

- BLS の復習
- 監視
- 引き上げ
- 運搬など



実績及び今後の課題

● 実績

- JLAインストラクターにより実施（3時間）している。
- 修了者は、JMS公式競技会で、監視救助業務のサポートが可能となる。
- 2019年7月現在、3回（千葉・横浜・京都）実施し、**合計21名**が参加
- 修了者の一部は、既に**実際のJMS主催大会での監視救助業務に従事**。

● 今後の課題

- 重大事故を未然に防ぐには、多くの目による監視が重要
- 認定ライフセーバーとどのように協力していくか？
- 全国展開や継続研修の方法をどのようにしていくか？

日本マスターズ水泳協会と日本ライフセービング協会はパートナーシップ協定を結ぶ
(2018年7月から)



様々な団体がコラボレーションして安全管理体制を強化していくことが重要！！